

## 学校「が・で・に」できること・できないこと

三浦 修一  
横浜国立大学教育人間科学部附属  
教育実践総合センター 研究員  
(前横浜市立原中学校校長)

- 1 最近のことから
  - (1) 携帯電話の使われ方  
カメラに写っていたもの  
良い子・悪い子・普通の子
  - (2) メールから始る「問題」  
「けんかサイト」に集まる子どもたち  
「中学校」掲示板から、すべては始まる  
コミュニケーションの二重構造
  - (3) 保護者の意識  
「家の子に限って」という思い込み  
「家電」のない家庭  
個人情報についての過剰な反応
- 2 学校「が・に・で」できること・できないこと
  - (1) なぜ中学校は「持ち込みを禁止する」のか  
教育活動についての教師の意識  
社会からの期待とそれに応えようとする学校  
ルールを作ること・守ることを学ばせたい  
生徒の意識  
「携帯を持ってきてよい」ことを公約にする生徒会役員選挙  
「学校にいる間は必要ない」と考えている生徒たちの健全さ  
それでも「守らない」一部の生徒への対応  
ゲームやネットに「はまる」ことと怠学～不登校の関係
  - (2) 小学校で起きていること  
非行の低年齢化とリンクする現象  
親が持たせる家庭
  - (3) 高校では  
基本は「マナー指導」
- 3 この研究会にお願いしたいこと - 私の視点 -
  - (1) 子どもたちの中で起きていることは、大人社会の反映であるという前提
  - (2) 現在のネット社会の中で、企業は社会的責任を果たしているのか
  - (3) 学校ができることの限界を超えていないか
  - (4) 新たなカリキュラム開発の必要性  
「情報リテラシー」を、小学校段階から計画的に育てる必要性  
たとえば「ソーシャルスキルトレーニング」などの方法を用いて  
OECDの提言「キー・コンピテンシー」なども視野に入れて